

豊かな心と健やかな体の育成

～教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実～

平成27年度 東京都教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育推進校・研究開発校
(中央区立久松小学校ホームページ参照)

平成28年度 東京都教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育推進重点校
(同左ホームページ参照)

平成29～令和2年度 東京都
教育委員会オリンピック・
パラリンピック教育
アワード校



研究のねらい

小学校

○全ての教育活動の中で、カリキュラム・マネジメントの充実を図ることで、一人一人の主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、本校の求める資質・能力を育成する。

幼稚園

～季節を感じて遊ぶ子どもを育てるために～

幼児の主体的な遊びから、各学年の目指す幼児像につなげる。

研究の内容

小学校

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、教育活動全体すなわち学校行事・各教科等の指導内容を関連付ける。
- 「深い学び」の実現を目指し、各教科等の横断的な指導ができるよう年間指導計画や単元計画を見直す。
- 教育活動の質の向上を目指し、学年内の交換授業や教科担任制を一部導入し、多面的な児童理解を深めると共に教材研究を深め、カリキュラム・マネジメントを充実させる。

幼稚園

- 季節感を取り入れた遊びに焦点を置き、幼児が「季節を感じて遊びを楽しんでいる」場面から教師の援助、教材、環境の工夫を考える。
- 幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考にし、より具体的な発達に応じた経験や育ちを探る。

令和3年3月

中央区立久松小学校 中央区立久松幼稚園



久松の研究

目 次

○ 久松の研究……………	1
○ 実践事例(小学校)……………	4
○ 実践事例(幼稚園)……………	11
○ まとめ……………	15

豊かな心と健やかな体の育成

～教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実～

子どもたちの環境と現状

- 気の合う限られた集団内での関わり
- インターネット・メール・SNSでのコミュニケーション
- 思いを一方向的に伝える ○ 自尊心の低下
- 友達や仲間に関する悩みの増加
- 多忙で心に余裕がなく自己中心的
- 低い水準で推移する体力
- 情報化・人工知能の進化
- 表現力の低下(学習力サポートテストより)

主体性の高まり

求められる資質・能力

知的能力・社会的能力

- 思考力・判断力・表現力
(未知の状況に対応できる力)
- 主体性・自己調整力(学びに向かう力・思いやりの心・人間性・自身の学びを振り返り、学びを調整する)
- 思考の基盤となる基礎学力(生きて働く知識・技能)
- 合意形成能力(協力した課題解決)
- 自分と他者を大切にすること

健康・体力

集団としての高まり

多様な課題

育てたい姿・目指す姿

自ら課題をもち、多様な価値観をもつ人と協力・協働して追究する子

- ④ 学んだことを生かして、自ら課題を見付けて解決しようとする力
- ⑤ 互いの違いやよさ、個性を認め、尊重し合い、協働してよりよいものを求めようとする力

学びに向かう力・人間性等

- ② 情報を比較・分類・関連付け・理由付けをしながら自分の考えを広げ、深める力
- ③ 多様な考えを生かしながら、根拠をもって考え、創造する力

- ① 生きて働く知識・技能を習得する力

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

一人一人の主体的・対話的で深い学びの保障

主体的な学び

- ◆ 学ぶこと・ねらいへの興味・関心、学習の振り返りの中でよさや可能性への気づき

対話的な学び

- ◆ 子ども同士の協働、教員や地域の人との対話・交流の中で気づき・思い・考えの共存

深い学び

- ◆ 教科等の特質に応じた思考・判断・表現
- ◆ 関係性やつながり、系統性などへの気づき・納得

全教育活動を協働的に課題解決するための授業改善

言語活動

小集団活動

体験活動

習得・活用・探究のバランスを工夫した単元構成

「カリキュラム・マネジメント」の充実

育てたい姿・目指す姿に迫るための方法・手だて

あいさつ

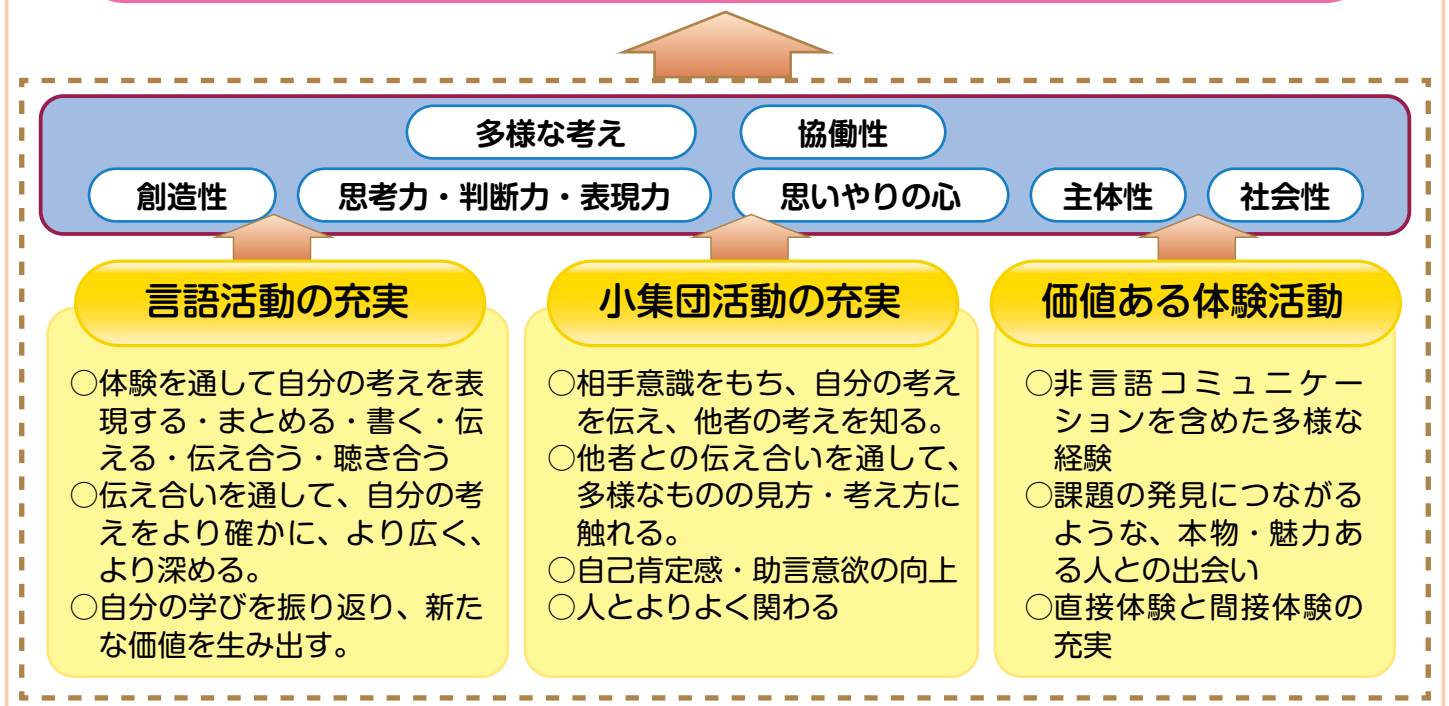
校長 植村 洋司

本校は、これまで長きにわたり「豊かな心と健やかな体の育成」を研究主題とし、小集団活動を核として研究を推進してきました。これまでの研究成果を受け継ぎつつ、令和2・3年度中央区教育委員会研究奨励校の指定を受け、研究主題「豊かな心と健やかな体の育成～教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実～」の下、全教科・全領域において実践的な研究を進めてまいりました。その中で、学校全体で貫いてきたことは「日々の授業の充実」です。そのために、学校全体で組織的に連携・協力して切磋琢磨してまいりました。久松幼稚園とも、日常的に協力してまいりました。このことは、全教職員の指導力向上を図ることにつながりました。

この度、本年度の本校の研究の一端をまとめることができました。皆様の御叱正をいただきたくお願い申し上げます。今後とも、カリキュラム・マネジメントの視点をもって、更なる授業の質の向上を目指して学校全体で精進してまいります。御指導いただきました國學院大学教授 田村学先生をはじめ講師の先生方、中央区教育委員をはじめ関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

各教科等において教科等横断的な視点で組み立てる

全教育活動でカリキュラム・マネジメントの充実を図ることで「主体的・対話的で深い学び」を実現し、本校の目指す資質・能力を育成する。



授業改善

習得・活用（発揮）・探究のバランスを工夫した単元構成

→主体的・対話的で深い学びの充実

1単位時間における学習過程の工夫

→課題解決学習となる、学習のプロセスの確立

カリキュラム・マネジメントの充実

- 教科等横断的な単元のカリキュラムデザイン
- PDCAサイクルの評価・改善
- 各教科等で育てようとする資質・能力の作成
- 地域人材・地域教材の活用

主体的・対話的で深い学びと本校・本園の研究実践

従来行ってきた小集団活動を核とした学習指導の蓄積を新たな視点で見直し、より主体的・対話的で深い学びを目指す中で、主題「豊かな心と健やかな体の育成」に迫る。何ができるようになったのかを明確にし、そのためにどのように学ぶのかを大切にする。

(幼児期からの継続性を大切に、一人一人に保障する)

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

周囲の環境に興味や関心をもって働き掛ける。
又見通しをもって粘り強く働き掛ける。

(幼 児 な り に)

他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、協力したりして自分の考えを広げ深める。

直接的・具体的な体験の中で様々な見方・考え方を働かせて対象に関わり、心を動かし、自分なりのやり方、ペースで試行錯誤を繰り返し生活する。

(学年等の発達に応じた系統性を大切に、一人一人に保障する)

児童期の終わりまでに育ってほしい姿

相手意識・目的意識をしっかりもち、**小集団**での表現活動の中で自らの学習を振り返る。振り返りの中で自己のよさや可能性に気づき、意欲を高める。

小集団活動による交流の中で、一人一人の気づき、考え、思いが共有され新たな気づきや関係を明らかにする。
相手を思いやる交流・関わりができる。

各教科等のもつ、それぞれの特質を大切に**小集団活動**を充実させることで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出す。関係性やつながり、系統性などに気づき納得する。
振り返りによるつながりなどの気づき、納得、腑に落ちる。

学びに向かう力

学びの質を高める

納得できる深い学び

小集団活動を活性化する手だて・工夫で深い学びに迫る

豊かな心と健やかな体の育成

これまで
目指して
きたこと

主体性 関わる力 質の高い学び

小集団活動を核とした
コミュニケーション能力の向上・言語活動の充実

●久松小学校の小集団活動…2人・3人・4人の活動で、視点を決めて見合う、意見や思いを伝え合う中で、相手を考えた伝え方を学び、自分の考えを広げたり、深めたりする。主体性や思考力・判断力・表現力などを育成する。

1年 生活科 「もうすぐ 2年生!」

育成を目指す子どもの姿

- 情報を比較・分類・関連付け・理由付けをしながら自分の考えを広げ、深めることができる子(思考力・判断力・表現力等)
- 互いの違いやよさ、個性を認め尊重し、協働してよりよいものを求めようとする子(学びに向かう力・人間性等)

思考力・判断力・表現力

創造性

多様な考え

主体性

社会性

思いやりの心

協働性

具体的手だてと活動

・育成を目指す子どもの姿に迫るために
・主体的・対話的で深い学びに迫るために

カリキュラムマネジメントを 意識した教科等横断的な指導 (カリキュラム・マネジメントの視点)

国語科「てがみでしらせよう」で目指す資質・能力「経験したこと、楽しかったこと、を思い出し、必要な事柄を集め、比較・関連付けて考える」を生活科の本単元に生かせるように、教科横断的に指導した。このことで、すごろくに書く内容は、書きためてきたカードから必要な事柄を選んだり、比較したりして書くことができた。また、国語科「いいこといっぱい1年生」「これはなんでしょう」、図工科や道徳、学級活動等の教科等や、6年生を送る会、入学式準備などの行事との関連的な指導を行い、自分の成長やそれを支えてくれた人などについて考える機会を増やすようにして、深い学びにつなげるようにした。

気付きの質を高める ～深い学びの実現～ (思考力・判断力・表現力)

感覚的な個々の気付きから、前の自分と今の自分を比較する活動や友達との交流、家族やお世話になっている人からのメッセージをもらう活動を通して、気付きが相互に関連付くようにし、気付きを自覚化するようにした。「みんなでいっしょに大きくなってきただね。」「2年生でも、縄跳びを頑張りたい。」という自分自身への気付きが生まれた。また、立場の違う先生方にインタビューをすることで、児童が自分の成長を多面的に実感できるようにした。



言語活動の充実 (主体性)

1年生の生活や出来事を思い出さず、過去と現在の自分を比較しながら、自分の生活や成長を見つめ直し「とっておきの1年生すごろく」を作成した。映像、写真、自分の作品などを手掛かりとして具体的に振り返り、その時の気持ちやできるようになったことの中からとっておきを選んでカードに書いた。すごろくを見合った友達に積極的に「きらきらカード」を書いて伝え合ったり、家族に自分のがんばりや成長について伝えたりした。



小集団活動の活用 (思いやりの心・協働性)

活動の中心(学び合い)では、2人や3人での活動を取り入れた。園児の立場に立ったクイズと一緒に考えてプレゼントを作った。お互いの「とっておきの1年生すごろく」を見合って、友達が一番がんばったことや素敵なことを見付けて「きらきらカード」を渡し合う活動を繰り返し行った。すごろくで一緒に楽しみながらお互いに友達のよさに気付くとともに、新たな自分への気付きも生まれ、自分に自信をもつことへとつながった。



2年 生活科 「町のすてきをみつけ隊」

育成を目指す子どもの姿

- 互いの違いやよさ、個性を認め、尊重し合い、協働してよりよいものを求めようとする子（学びに向かう人間性等）
- 情報を比較・分類・関連付け・理由付けしながら自分の考えを広げ、深めることができる子（思考力・判断力・表現力等）
- 学んだことを生かして、自ら課題を見つけて解決しようとする子（学びに向かう力・人間性等）

思考力・判断力・表現力

創造性

多様な考え

主体性

社会性

思いやりの心

協働性

具体的手だてと活動

- ・育成を目指す子どもの姿に迫るために
- ・主体的・対話的で深い学びに迫るために

他教科との関連

（カリキュラム・マネジメントの視点）

「書く」「話す」「聞く」「観察する」「考える」「作る」などといった各教科での既習事項を一つの掲示板にまとめることによって、児童自ら必要な時に必要なものを活用することができる。また、掲示板に追加すべきものについて児童から声が上がることがようになってきた。



ICT機器の活用

（思考力・判断力・表現力・多様な考え）

理解を助けたり、考えを共有したりするためにICT機器を積極的に取り入れた。インターネットを使って地図や写真を映し出したり、児童自身がタブレットPCを使って考えを伝え合ったりした。



考えを深める工夫

（思考力・判断力・表現力）

町全体から範囲を絞った地域、特定の店や場所、人といったように徐々に学習対象を狭めていった。そのことによってスパイラルな学習になり、児童の思考も学習を進めるにつれて深まった。

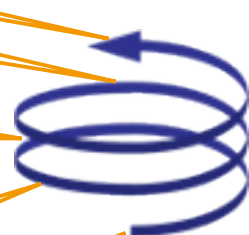
町の人と自分

そこで生活する人や働く人

店舗や施設等

横山町・浜町・人形町

学校周辺全体



体験的活動の工夫

（主体性）

今年度はコロナ禍にあるため、体験的な活動の範囲は非常に限られたものとなった。足りない部分はインターネット上の地図や写真等を使って町歩きの疑似体験をしたり、オンライン交流や手紙を活用したりして補った。



3年 特別の教科 道徳「きまりじゃないか」C 規則の尊重

育成を目指す子どもの姿

- 学んだことを生かして、自ら課題を見付けて解決しようとする子(学びに向かう力・人間性等)
- 情報を比較・分類・関連付け・理由付けをしながら自分の考えを広げ、深めることができる子(思考力・判断力・表現力等)

思考力・判断力・表現力

創造性

多様な考え

主体性

社会性

思いやりの心

協働性

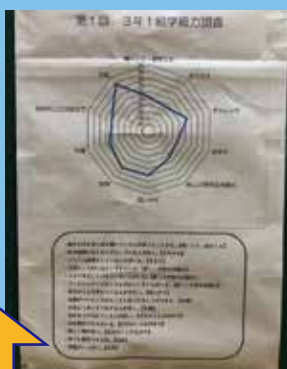
具体的手だてと活動

・育成を目指す子どもの姿に迫るために
・主体的・対話的で深い学びに迫るために

特別活動・国語科との関連

(カリキュラム・マネジメントの視点)

特別活動で、学級に必要な資質を考え、複数の内容項目を「3年1組パワーアップ大作戦!」というテーマを基に関連付けることにより、よりよい学級集団にしていこうとする意欲や態度を育むことに取り組む。また、国語科の対話の練習の単元で、話し合う活動を通して気付いたことから「3年1組話し合いの工夫」をつくり道徳や他教科で共通して使うことで話し合いに必要な力を一貫して意識させる。



小集団の活用

(思考力・判断力・表現力・多様な考え)

自分の考えを広げたり、深めたりするために小集団を活用した。それぞれの考えを共有することで、自分の考えを改めて自覚するとともにさらに多角的な視点から深まった考えをもつことができた。また、コロナ禍での小集団活動の工夫として、付箋を使ってそれぞれの考えを交流した。



学習問題設定の工夫

(多様な考え・主体性)

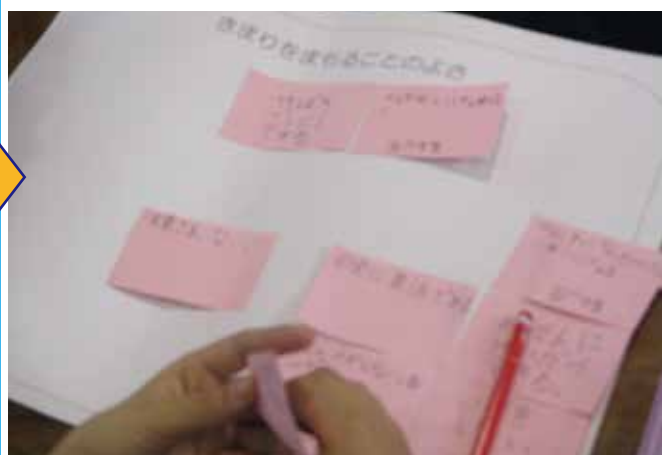
学級力の向上に関連する【礼儀】【友情,信頼】【規則の尊重】の価値項目を同一ユニットとして学習を進めた。毎時間同じ形式で話し合う活動を繰り返すことで、児童が話し合いにも慣れ多様な意見を出しやすくなった。



話し合いの視点の工夫

(思考力・判断力・表現力・多様な考え)

「きまりを守らなかつたら、今と何がかわるのか」という補助発問を加えることで、多角的にテーマに対しての考えを深めるきっかけとなった。また、付箋を用いてシートにまとめることで相互の考えが明確になった。



4年 総合的な学習の時間

「発信・発進・久松～4年2組にまかせて!コロナで困っていることを解決☆～」

育成を目指す子どもの姿

- 学んだことを生かして、自ら課題を見つけて解決しようとする子(学びに向かう力・人間性等)
- 情報を比較・分類・関連付け・理由付けをしながら自分の考えを広げ、深めることができる子(思考力・判断力・表現力等)
- 互いの違いやよさ、個性を認め合い、尊重し合い、協働してよりよいものを求めようとする子(学びに向かう力・人間性等)

思考力・判断力・表現力

創造性

多様な考え

主体性

社会性

思いやりの心

協働性

具体的手だてと活動

・育成を目指す子どもの姿に迫るために
・主体的・対話的で深い学びに迫るために

単元計画の見つめ直しと 他教科等との関連の明確化 (カリキュラム・マネジメントの視点)

学習の中で自ら課題を見つけて解決していくために単元計画の見つめ直しを行う。探究的な学習の問題解決的な活動が発展的に繰り返されていくことができるようにする。また他教科との学習を繋げて計画することで、他教科で学んだ知識や技能を実際に発揮する機会が増え、総合的な学習の時間だけでなく、他の教科でも主体的に学習に参加することができる子どもたちが増える。



小集団の活用

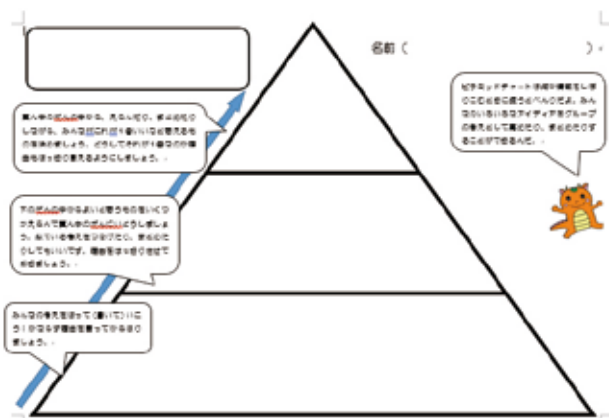
(思考力・判断力・表現力・多様な考え)

本単元では、様々な場面で自分の考えを深めたり、広めたりするために小集団を活用する。それぞれの考えを共有する時間を通して、自分の考えに自信がなかった子どもたちも友達と考えを共有することで自信をもち、また友達の考えから新たな考えを再構築できた。



考えるための技法 (思考ツール)の活用 (思考力・判断力・表現力)

子どもたちが得た情報を比較したり関連付けしたりするために、「考えるための技法」を活用する。活用することで、情報が整理され、自分の考えていることが明確になるだけでなく、たくさんの子どもが自分の考えを表明するきっかけになった。



自分を振り返る時間の確保

(主体性)

今日の学習や活動を振り返り、自分の学びや考えを整理するために、①毎時間の振り返り②単元のまとまりごとの振り返り③小単元ごとの振り返りを行う時間をつくる。振り返りの時間をとることで、自分の学習を見つめ直すことができ、次時への意欲にもつながった。



5年 総合的な学習の時間 「スマイルプロジェクト」

育成を目指す子どもの姿

- 生きて働く知識・技能を習得する力(知識・技能)
- 情報を比較・分類・関連付け・理由付けしながら自分の考えを広げ、深める力(思考力・判断力・表現力等)
- 学んだことを生かして、自ら課題を見つけて解決しようとする力(学びに向かう力・人間性等)

思考力・判断力・表現力

創造性

多様な考え

主体性

社会性

思いやりの心

協働性

具体的手だてと活動

・育成を目指す子どもの姿に迫るために
・主体的・対話的で深い学びに迫るために

単元計画の工夫

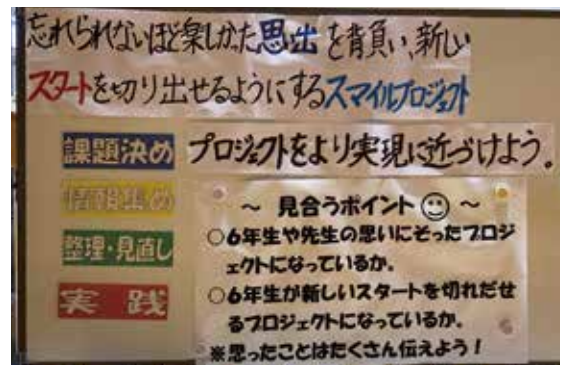
(カリキュラム・マネジメントの視点)

児童の意見から課題を設定し、自ら解決していこうと思えるようにした。自分たちが解決するのだという必要感をもたせることで、主体的な活動に繋がった。第一次は「自分」(秋の久まつり)、第二次は「学年共通の他者」(幼稚園)、第三次は「クラス共通の他者」(本学級では6年生を選択)の笑顔といったように、学習活動を発展的に繰り返していった。

学習の見通しをもたせる工夫

(主体性)

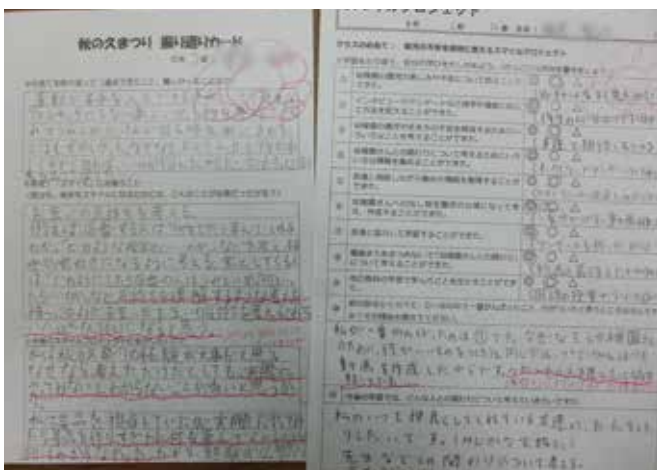
学習を進める4つのサイクル(①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現)を黒板に掲示し、自分たちが現在活動していることが、どこにあたるのか意識させた。見通しをもたせることで、「何のために情報を収集するのか」「必要な情報は何か」「どのように整理・分析すればよいか」など、主体的に学習に取り組めるようにした。



振り返りの工夫

(主体性)

小単元同士のつながりをしっかりと意識させるために、自分たちの活動を振り返り、成果や課題を挙げて次時以降の学習に生かすようにした。一単位時間の終末に価値付けることで、今後の道筋を児童がイメージしやすいようにした。



プロジェクトの向上化

(思考力・判断力・表現力)

プロジェクトを実現に近付けるために、本物に触れることを重要視した。アルバム作りでは、どういう写真が使われているのか、レイアウトで工夫している箇所はどこかを探するなど本物を分析し、自分たちのプロジェクトに生かした。また本校のPTA広報部長の保護者にオンラインでインタビューをするなどして、プロジェクトの質を向上させることができた。



6年 外国語科 日本文化を紹介しよう

育成を目指す子どもの姿

- 学んだことを生かして、自ら課題を見つけて解決しようとする子(学びに向かう力・人間性等)
- 情報を比較・分類・関連付け・理由付けをしながら自分の考えを広げ、深める子(思考力・判断力・表現力等)

思考力・判断力・表現力

創造性

多様な考え

主体性

社会性

思いやりの心

協働性

具体的手だてと活動

・育成を目指す子どもの姿に迫るために
・主体的・対話的で深い学びに迫るために

他教科等との関連

(カリキュラム・マネジメントの視点)

国語科の「日本の文化を発信しよう」と関連付け、各自のテーマを決める。社会科や音楽科、図画工作科で学習したり触れたりした日本の文化的な事項なども生かし、より具体的で、一人一人の思いや考えが伝わる内容にしていく。日本語での複雑な説明が、英語ではシンプルな言い方で伝えられることにも気づき、表現の違いの面白さも感じていた。



外部人材、動画の活用

(主体性)

他校のALTからの「日本が大好きです。しかし日本の文化には詳しくないので、久松小学校の6年生にぜひ紹介して欲しいです。」という内容の動画を用意し、最終ゴールの場面と相手を明確にした。「英語を使って紹介したい。」という主体的な学習につながった。



小集団の活用

(思考力・判断力・表現力・多様な考え)

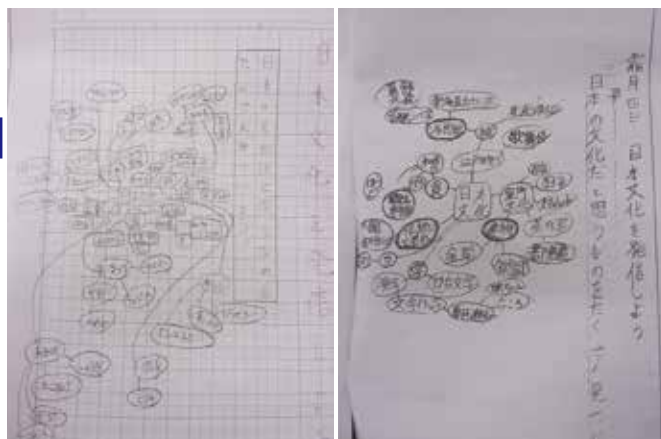
3～4人の小集団で、互いに各自の紹介を見合い評価し、より伝わる紹介の仕方を考えた。グループの課題や工夫を全体で共有し、またALTからのアドバイスをもらうことで、「相手意識を持ち伝わりやすく紹介する」ための工夫が具体的に理解できた。



思考ツールの活用

(思考力・判断力・表現力・主体性)

イメージマップを使い、日本の文化について情報を整理した。さらに、その情報を様々な視点から比較検討して、紹介したいことを精選させた。紹介したいことが明確となり、伝えたい内容をまとめるのに役立った。



6年 国語科 「日本文化を発信しよう」

育成を目指す子どもの姿

- 情報を比較・分類・関連付け・理由付けをしながら自分の考えを広げ、深めることができる子（思考力・判断力・表現力等）
- 学んだことを生かして、自ら課題を見付けて解決しようとする子（学びに向かう力・人間性等）

思考力・判断力・表現力

創造性

多様な考え

主体性

社会性

思いやりの心

協働性

具体的手立てと活動

・育成を目指す子どもの姿に迫るために
・主体的・対話的で深い学びに迫るために

外国語科・社会科との関連

（カリキュラム・マネジメントの視点）

外国語科では、日本文化を外国人にポスターにして紹介するという課題に取り組む。国語科で作ったパンフレットを基にして外国人に伝えたい内容を考え、ポスターに表した。外国語科では外国人に紹介したい内容、国語科では自分が深めたい内容についての双方を考えることで日本文化を多面的に捉えることができる。室町文化等社会科の学習で得た知識を国語科や外国語科の学習と関連付けることで知識の定着だけでなく、今も受け継がれ、楽しまれていることの意義や伝統文化について考えることができる。



ICTの活用

（思考力・判断力・表現力・主体性）

パンフレットにまとめるという活動は、写真や絵図を用いる必然性のある媒体であるため、タブレットを使用した。自分にとって必要な写真をパンフレットのサイズに合わせて印刷することで自分の表現したいものを意識させた。また、本や話を聞いただけでは不十分な箇所はインターネットで調べて学習を深める。



思考ツールの活用

（思考力・判断力・表現力・多様な考え）

ウェビングマップを活用し、日本文化について社会科での既習事項や自分の興味関心のある内容を広げたり関連付けたりした。クラス全体で日本文化の多様さやよさを共有する。



小集団での学び合い

（多様な考え・主体性）

資料の用い方やタブレットの使い方を友達同士で学び合う中で、学習に主体的に取り組もうとする態度を育てる。また、下書きの段階で付箋を使ってアドバイスやよさを認め伝えられるようにしたこと自分のパンフレットに友達のアドバイスやよいところを取り入れた。



幼稚園

教育目標

○たくましい子

○進んでやる子

○心豊かな子

本園の幼児の姿（課題）

・自然環境が少なく、自然物に触れて遊ぶ経験が少ない幼児が多い。



教師の願い

・自然と関わる中で、おもしろさ、不思議さや美しさなど心が動かされるような経験をして欲しい。
・自分から「～してみたい!」という思いをもって、遊びの中で試したり、工夫したりしながら自然と関わって遊ぶことを楽しんで欲しい。



研究主題

「豊かな心と健やかな体の育成」

―季節を感じて遊ぶ子どもを育てるために―

目指す幼児像

- 3 歳児 ・ 身近な自然と関わりながら、不思議さを感じて遊ぶ楽しさを味わう
- 4 歳児 ・ 繰り返し遊ぶ中で、見付けたり発見したりする面白さを感じる
- 5 歳児 ・ 好奇心や探究心をもって見つけたことや考えたことを伝え合う

季節感を取り入れた遊びに焦点を置き、幼児が「季節を感じて遊びを楽しんでいる」場面から教師の援助、教材、環境の工夫を探る。

令和元年度の成果や課題を生かしながら、事例検討や研究保育を行う。

幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考にし、より具体的な発達に応じた経験や援助を考えていく。

- ① 健康な心と体 ② 自立心 ③ 協同性 ④ 道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤ 社会生活との関わり ⑥ 思考力の芽生え ⑦ 自然との関わり・生命尊重
- ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨ 言葉による伝え合い
- ⑩ 豊かな感性と表現

年少組 目指す幼児像：身近な自然と関わりながら不思議さを感じて遊ぶ楽しさを味わう

11月～12月 砂遊び

幼児の姿

- ・シャベルやカップを使ってままごとをし、砂を食べ物に見立てたり、教師とやりとりしたりして楽しむ姿が見られた。



おいしい
プリンを作るよ!



- ・教師や友達と一緒に山を作ったり、トンネルを掘ったりし、直接手で砂に触れながら作ることを楽しむようになった。
- ・友達の作っている山やトンネルに興味をもち、自分でもやってみたり、「入れて」と言って一緒に作ったりする姿が見られるようになった。



水をかけて
固くしよう!

大きい山になってきたよ

○教師の援助 ☆環境

- 教師は幼児と一緒に遊びながら、幼児が作ったものに興味をもって関わり、より楽しさを感じられるようにする。
- 教師が砂に触れて楽しく遊ぶ姿を見せ、幼児が砂に触れてみようと思えるようにする。
- それぞれの遊び方や楽しさに共感し、認める。
- ☆砂に触れやすいように、シャベルやカップなどの用具を準備しておく。

☆繰り返し砂遊びができる機会をつくる。

- 砂に触れながら遊ぶ楽しさやできた喜びに共感する。
- 友達がしていることを教師が言葉にすることで、いろいろな遊び方に興味をもてるようにする。
- 水を使うと砂が固くなるという気づきを捉えて教師が言葉にし、周りの幼児にも伝わるようにする。
- ☆遊びの中で、水も使えるように準備しておく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる姿

- ・喜んで砂に触れたり、自分なりの思いをもって関わったりしながら遊ぶようになる。 (①健康な心と体)
- ・砂に水を混ぜると固くなることや、固い山を作るとトンネルができることに気づきながら遊ぶようになる。 (⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重)
- ・友達の姿に関心をもったり、自分から関わろうとしたりする姿が見られるようになった。 (③協同性)

まとめ（成果と課題）

- ・教師が砂場で楽しむ姿を見せながら一緒に遊ぶことで、幼児は楽しさを実感し、興味をもって、自分もやってみようとする姿につながった。
- ・暑さ寒さを感じながらする遊びや、季節行事を取り入れた遊びの工夫、時節を知る掲示物や製作物を幼児が目につく廊下などに環境設定してきたことなどから、年少児なりに興味や関心をもって季節を感じて遊ぶ幼児の姿につながった。
- ・土や砂、虫や植物などの自然物の関わり方には個人差が見られるので、それぞれが抵抗なく関わって遊ぶことができる援助や導入の仕方を工夫していく必要がある。

年中組 目指す幼児像：繰り返し遊ぶ中で、見付けたり発見したりする面白さを感じる

10月 どんぐりを使った遊び（どんぐりゴマ）

幼児の姿

- ・好きな遊びの中で、どんぐりや松ぼっくりなどの秋の自然物に親しみながら「自分なりに作る」「作ったものを使って遊ぶ・試す」ということを楽しんでいる。
- ・友達の動きを見て、真似たり、同じようなものを作り身に付けたりすることを楽しんでいる。



色を塗ろう♪



- ・作ったものを使って遊ぶことを楽しむ幼児が増えてきた。



何回もやってみたら回せるようになったよ!



- ・繰り返し自分で回すことを楽しむと、友達の動きを見て一緒にやってみたい、競争してみたいという友達と関わりながら遊ぶことを楽しむ姿が出てきた。

どうしたら速く回せるの?



回し方教えてー!

○教師の援助 ■教材 ☆環境の工夫

- ☆幼児の興味関心が高まるように、幼児が持ってきたどんぐりを一緒に形（種類）ごとに分類して入れる。
- 自分たちで遊びが進められるように、穴の開いたどんぐり、つまようじ等を準備する。
- ☆サクラ広場や廊下等に、身近な秋の自然物に触れられるような場をつくり、いつでも遊びに使えるようにする。
- ☆人数に応じて、作る場を用意したり、できたコマを飾る場所を用意したり、環境を工夫し、友達の作品や遊びにも興味をもてるようにする。
- 自分なりに試しながら作る姿を認める声を掛ける。

- ☆自分なりにじっくり取り組めるようトレーを用意する。
- 子どもの思いに共感する。

- ☆フープを用意して遊びを見やすくすることで、友達のしていることに興味をもてるようにする。
- 教師がモデルになって遊び方を示したり、幼児同士の関わりがうまれるように、声掛けをしたりする。
- 友達と一緒に関わって遊ぶ楽しさを感じられるように幼児の姿を具体的に言葉にしたり認めたりする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる姿

- ・繰り返し遊ぶことで、試したり、自分なりに考えたりするようになった。 (⑥思考力の芽生え)
- ・どんぐりや松ぼっくりなど秋の自然物に触れ、見つけたものを自分なりに取り入れて遊ぶようになった。 (⑦自然との関わり・生命尊重)
- ・友達の動きを認めたり、思ったことを友達に伝えようとしたり、聞こうとしたりするようになる。 (⑨言葉による伝え合い)
- ・自分なりのどんぐりゴマを作ったり、感じたことや思ったことを自分なりに言葉にするようになった。 (⑩豊かな感性と表現)

まとめ（成果と課題）

- ・幼児が取り組みやすいような教材や環境をつくってきたことで、興味をもち進んで関わったり、自分なりに試し、工夫したりしながら遊びを楽しむ姿につながった。
- ・友達のしている遊びが見えやすいような場づくりや、友達のしている遊びに興味をもつきっかけとなるような声掛けをしてきたことで、刺激を受け、自分でもやってみようとする姿につながった。引き続き友達のしていることに興味をもてるような環境を考えていく。

年長組 目指す幼児像：好奇心や探究心をもって見付けたことや考えたことを伝え合う

6月下旬～9月上旬 水遊び

幼児の姿

- ・雨樋に水が流れていくことを楽しみ、何度も繰り返し水を流す姿が見られた。



樋が斜めになっているとよく流れるね。



- ・水だけでなく、いろいろな物を流したいという姿が見られるようになった。



勢いをつけて流してみよう!

- ・目的を達成するために、どうしたらその素材が流れるのか、水の勢いや樋の角度、流す水の量などを友達と一緒に考えていく姿が見られるようになった。

○教師の援助 ■教材 ☆環境の工夫

- 自分なりに高さを変え、工夫して遊ぶことができるよう、いろいろな高さのはしごを用意する。(1学期中に保護者に協力してもらい、作成を依頼。)

☆はしごや雨樋を幼児が遊びたい時に自分たちで持ってきて使えるようにしておく。

- 教師も一緒に遊びの仲間に入りながら、水の心地よさや水が流れることの楽しさに共感する。

☆すずらんテープやペットボトルのキャップ、ミラーテープなどの素材を用意する。

- 学級で集まったときに、水遊びについて話題に出すことで、どの幼児も興味をもつことができるようにする。

- それぞれの幼児の考えを受け止め、そのことを言葉にして伝えながら、更なる考えを引き出すようにする。

☆使いたい時に使えるように準備しておく。

- 同じ目的に向けて面白がったり、楽しさを共有したりすることで、更なる工夫につながるようにする。

- 他児との意見や考えの違いに気づき、物事をいろいろな面から考えられるようにしたり、そのよさを感じられるように援助をしたりする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる姿

- ・目的の実現に向けて、考えたことを相手に伝えながら、工夫したり、協力したりするようになる。

(③協同性)

- ・考えたり予想したりして遊ぶようになる。

(⑥思考力の芽生え)

- ・身近な自然現象に好奇心や探究心をもって関わり、気付いたことや考えたことを言葉で表現しながら、さらなる関心をもって自然に触れて遊ぶようになる。

(⑦自然との関わり・生命尊重)

- ・経験したことや考えたことを相手に分かるように言葉で伝えたり、相手の話を理解したりするようになる。

(⑨言葉による伝え合い)

まとめ（成果と課題）

- ・自分たちで考えたことを出し合うことで、満足感につながり、さらに遊ぶ意欲を高めることができると分かった。
- ・園内外の自然の状況を把握して四季に合わせた遊びを取り入れたことで、幼児が好奇心や探究心をもって見たり触れたりして遊ぶ姿につながった。
- ・幼児が体験していることや気付いたことを教師が言葉にして伝えることによって、さらに興味や関心が高まる姿につながった。
- ・学年だけの活動になることが多かったので、学年を超えて関わって遊ぶことができる環境について考えていくことが必要である。

豊かな心と健やかな体の育成 まとめ

成果

○本校のめざす資質・能力の明確化及び全体での共有化

・本校のめざす資質・能力を学校目標に照らし、改めてはっきりさせたことで、各教科等で育てる資質・能力の重点を明らかにして研究をすすめることができた。

○学校行事・各教科等の指導内容の関連付けの意識化

・コロナ禍でも、各教科等との関連付けを意識することで、効率的に授業をすすめることができた。
・年間指導計画を見直すことによって、教育活動の質を高めることができた。

○深い学びを意識した指導

・他教科等との関連を指導者が意識することで、児童の発言や振り返りの中に、他教科等の学習内容や考え方とつなげる視点が見られるようになった。
・他教科で学んだ知識が、他教科で生きて働く知識となって発揮される場面が見られるようになった。

○「書く力」の向上

・新型コロナウイルス感染症対策のため、言葉によるやりとりは難しいため、学校全体で「書いたことの交流」など「書く活動」を重点的に行った。その結果、どの学年も「書く力」が大きく伸びた。

○ICTの活用

・Web会議システム等を活用し、研究授業や研究協議会を運営することができた。

小

幼

●事例検討で、幼児の思いや経験内容を読み取り、育ちを考え合うことで、各学年の実態や取り組みを共通理解し、他学年の保育に教員自身が関心をもち、連携を意識することができた。連携を意識することで、幼児が他学年と触れ合う姿につながった。

●戸外環境以外に、廊下の環境の見直しや遠足の内容の工夫など幼児が自然と触れ合う面白さ、不思議さを感じられるような環境をつくることができた。

●教師が願いをもって環境構成や援助をすることで、幼児が主体的に遊びを展開し、それぞれの学年の目指す幼児像につながっていくことが分かった。

課題

小

●更なる各教科等の横断的な指導

・学校行事・各教科等との指導内容の関連付けにおいて、振り返ると更に見直しが必要な部分があった。

●カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れたことによる児童の変容を検証

・教科横断的な指導を実践する中で、各教科等においてどのような資質・能力を育てようとしているのかを明確にする。

●情報の共有化

・思考ツールなど授業を進めていく中で、有効な教材や、活用した際の児童の変容などについて、更に情報を共有する。
・今年度行ってきた実践について、来年度に生かされるよう引き継いでいく。

幼

●引き続き、校園庭・サクラ広場・保育室・廊下などの環境を見直し、幼児が季節を感じられるような展示・掲示物や興味をもって遊び出せるような場づくりを計画的に考えていく。

●幼児の教材との出会いや関わりなどで有効だった援助、環境の工夫を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考にしながら考察し、今後の活動につなげる。

【御指導いただいた先生方】

國學院大学 教授	田村 学 先生	江東区立亀高小学校 校長	大湊 由紀子先生
東京女子体育大学 教授	小林 福太郎先生	練馬区立豊玉南小学校	根本 裕美先生
聖学院大学 教授	東 仁美先生	中央区立久松小学校 前校長	酒井 寛昭先生
中央区立京橋築地小学校 校長	平山 尚彦先生	中央区立月島幼稚園 前園長	岩城 眞佐子先生
中央区立日本橋小学校 校長	児玉 大祐先生		

中央区教育委員会

指導室長 中山 晴義	教育支援担当課長 細山 貴信
統括指導主事 上原 史士	統括指導主事 清水 浩和
指導主事 平野 収	指導主事 上田 純一
指導主事 増田 和弘	指導主事 稗田 浩士
	指導主事 五十嵐 容子
	幼児教育担当専門幹 中島由美子 松原 淳子

【研究に関わった教職員】 (◎研究主任 ○研究推進委員)

小学校

校長 植村 洋司	副校長 藤山 由仁	
1年 ○ 関澤 里織	澤田みさ妃	算数少人数
小野 育実	太田 倫子	音楽
斉藤 公春		音楽
2年 田城有加里	小豆野咲子	図画工作
相澤 博之	○支倉 絵璃	英語
3年 新井 万葉	千葉 日織	養護
○高橋 英樹	川合 晶道	事務
4年 ◎ 中原 里美	郡 飛丸	非常勤教員
関口里可子	常安 達彌	特別支援教室専門員
5年 ○ 大竹 悠介	太田 知依	都非常勤講師
小早川直也		都非常勤講師
6年 鈴木可奈子	○南村 章子	区算数講師
奈良部 淳		区算数講師
		体育指導補助員
		体育指導補助員
		栄養士
		英語ALT
		英語ALT

幼稚園

園長 太田 禎子	主任 阿部 良子
	主任 川原田明美
年少 佐久間栄美	小嶋 順子
片山 舞奈	
◎ 阿部 真秀	田邊 彩子
正木 絢子	宮野 莉歌
浅見 誠子	玉置 知美
原田 智子	小高 待子
加藤 幸代	藪見 舞子
高木 淳子	福本はるな
中村 美栄	石井 典子